

私立大学研究ブランディング事業
「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」
平成 30 年度研究中間報告

課題 6 忌避作物栽培による獣害対策

担当者：村上 二郎・森野 真理

■平成 30 年度の達成目標

定点カメラによる野生動物のモニタリングシステムの開発と行動解析（大学圃場）→獣害対策効果の検証・確認

■平成 30 年度の進捗状況（9 月末時点）

前年度に引き続き、獣害歴のある圃場にエゴマ・ヒカマを栽培し、野生動物の行動に関するモニタリングを行っている。本年度は、おとり用の作物としてカボチャを栽培し、それを囲むように、エゴマ、ヒカマさらに対照作物として陸稲をそれぞれ定植した。また、定点カメラの数を増幅し、より詳細な侵入行動や摂食活動を観察できる体制を整えた。しかしながら、豪雨や台風により、植物の倒伏や圃場の冠水が発生し、各植物の成長が芳しくないのが現状である。一方で、本学部の研究圃場においてヒカマを約 200 株生育している。今後、ヒカマの効果的な栽培法や収穫物の有効利用法などを検証し、南あわじ地域で栽培・普及が可能であるかを検討していく。